

献 辞

八木章先生は、平成24年3月をもって本学経営学部を退職されました。八木先生は、平成17年4月に経営学部助教授として就任された後、平成21年に教授に昇格され、平成22年から特任教授として2年間、教鞭をとられました。近畿大学での在職期間は7年間となりますが、本学における先生の教育・研究活動に対するご功績を讃え、ここに退任記念論文集を贈るものであります。

八木先生は、昭和42年3月に慶應義塾大学商学部をご卒業後、同年4月に竹中工務店に入社され、昭和56年4月に同社の本社情報センター開発部開発課長、技術研究所管理部長を経て、平成11年4月に本社人事企画部長の要職につかれ、手腕を振るわれました。竹中工務店における人事畑で永年培われた経験が、本学経営学部のキャリア・マネジメント学科における教育・研究活動のなかに遺憾なく発揮されたことはいふまでもありません。

八木先生の教育・研究活動につきましては、一貫して人的資源の活用という視点から人材教育論が展開されました。その研究の成果としては、ご高著『キャリア・マネジメント—企業・大学・公的機関の取り組み—』をあげることができます。先生のご研究では、人材教育の問題を企業・組織の立場に焦点をあてることにより、「企業・組織の取り組みとしての基盤整備活動と促進・支援活動」、「企業の人材教育の事例」が取りあげられています。さらに、人材教育の問題を大学の取り組みと公的機関の取り組みについて検討され、キャリア教育、キャリア・マネジメント教育の重要性が説かれています。本学経営学部では、平成17年にキャリアマネジメントコースを設置し、平成19年にはキャリア・マネジメント学科としてスタートした経緯がありますが、そこでのキャリア・マネジメントはキャリア論と人材マネジメント論を統合した見方がとられています。八木先生が取り組まれた人材教育論は、キャリア・マネジメントの中核をなす研究領域であり、この学科の多くの科目群も

これから派生しているといえます。

八木先生には、現在のキャリア・マネジメント学科の土台作りに積極的に関与されたことはもとより、キャリア・サポート・オフィスの開設、インターンシップ先の開拓等に並々ならぬご尽力を賜りました。具体的に述べますと、先生独自の実務経験を活かし、ご自分のゼミ生のみならず、幅広く来談者に対しても、就職相談や面接、エントリーシート添削等、きめ細やかな指導を行われました。インターンシップにつきましては、キャリア・サポート・オフィスにおられるキャリア・アドバイザーの協力を得て、受け入れ企業の開拓から、派遣学生の事前、期中、事後の面談指導を精力的に行うことにより、先生はインターンシップの教育をキャリア・マネジメント学科のユニークな実践領域の科目の一つに育て上げられました。学内活動につきましても、先生は経営学部の学生委員会の就職・インターンシップ委員長として、学部の諸行事に参画され、さらには全学の就職委員会において経営学部のインターンシップの取り組み事例等を紹介し、全学の意識の高揚に貢献されました。

八木先生は、キャリアコンサルタント、産業カウンセラーとして、日本産業カウンセラー協会等に所属されておられます。これらの所属団体に対して、大学のキャリア・マネジメント分野の新しい取り組みをアピールされ、経営学部の進取の精神について高い評価がえられたと聞き及んでいます。また、先生は、財団法人竹中育英会の評議員として、社会における人材育成事業の企画・運営に深く関与されました。

応対は身近に生じるさまざまな問題に応じてきびきびと処理することを、辞令は自分自身の考えを表現することを意味するものでありますが、にこやかに人と接する先生の応対辞令のお姿は、まさに人材マネジメントのプロとしての風格が漂うものでありました。先生がご退職なさることは、まことに寂しさの感がつるばかりでございますが、先生が本学経営学部に残された良き遺産を引き継ぎ、さらにそれを発展させていく所存でございます。先生には、これまでの教育と研究へのご尽力に感謝の念を申し述べますとともに、

これからも健康に留意され，なお一層のご活躍を心よりお祈り致します。併せて，この記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位ならびに編集委員会の労に対し，心より厚くお礼申し上げます。

平成24年11月

近畿大学経営学部長
山 口 忠 昭